

## 4 ストリート文化を展開するネットワーク

### (1) ストリート文化展開の場

#### ア 4つの骨格軸を中心とするストリート文化づくり

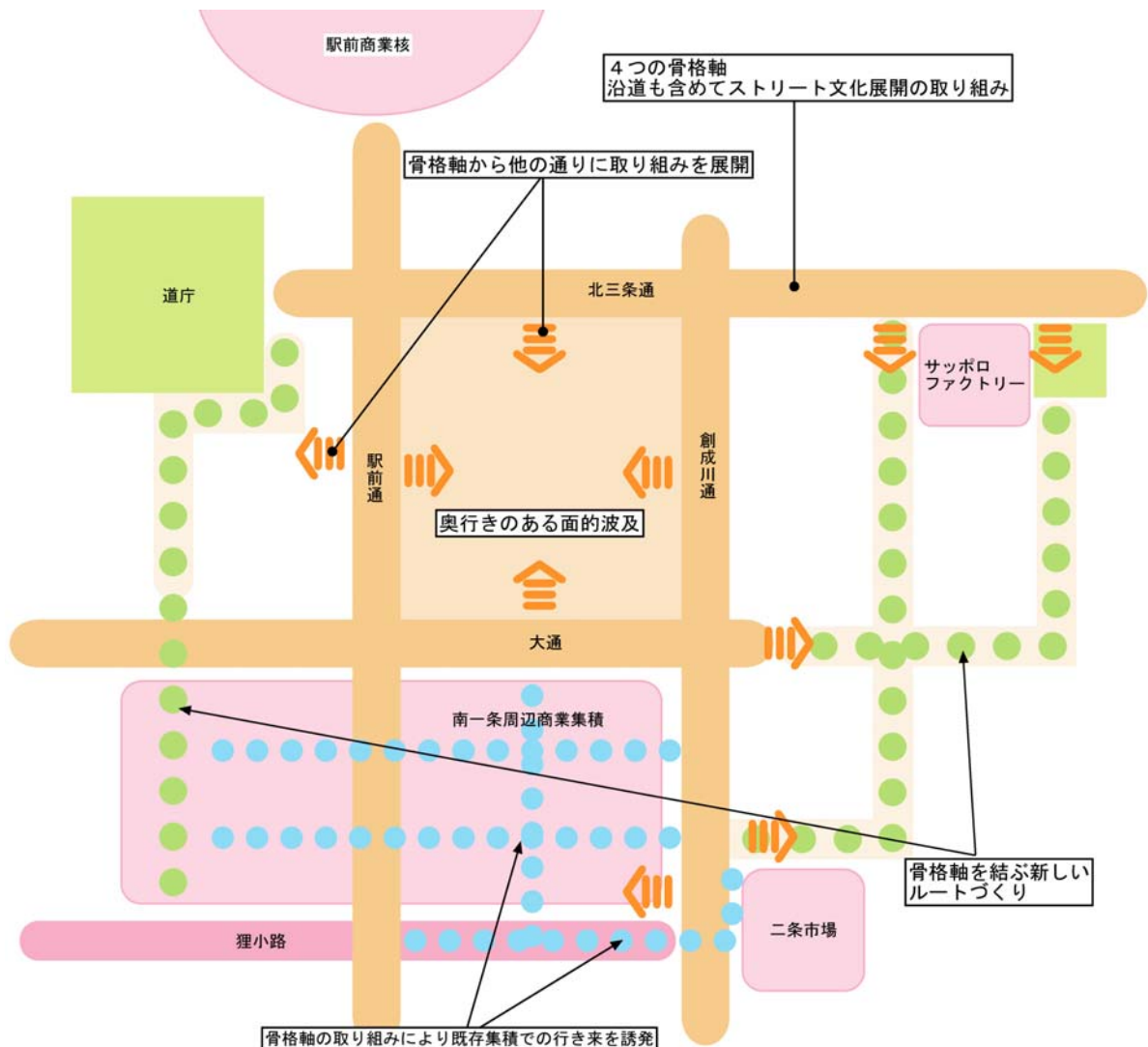
都心まちづくり計画に示される4つの骨格軸（駅前通、創成川通、大通、北三条通）は、都心まちづくりの基軸に位置付けられ、また異なる特色や潜在力を持っていることから、これらを中心に札幌都心部を彩り、個性のあるストリート文化づくりを進めます。

#### イ 周辺への波及的展開

4つの骨格軸における取り組みを、さらにその他の道路や中通りに面的、波及的に展開し、都心全体でのストリート文化の創造へと発展させていきます。

その対象としては、狸小路、南1条通、南2条通等の副次的な軸、中通り、路地裏といった、まちの奥行きを演出するストリート、建物敷地内のオープンスペースなどが想定されます。

#### 【ストリート文化展開のイメージ】



## (2) 4つの骨格軸におけるストリート文化の誘導方向

### ア 札幌駅前通

#### **地上と地下それぞれの魅力がいまって賑わいを創出するメインストリート**

都心でも多くの人々が行き交う通りの一つです。現在は単に通過するだけの交通も多いものの、それら歩行者に対し多様なサービスを提供することにより、都心の中でもアクティビティが最も活発に展開されることが期待できるストリートです。

また、優れた景観資源である豊かな並木により、明確な緑の中心を形成する通りであり、市民が誇りに思う札幌を代表するストリートです。

地下歩行空間の整備、地上部の再整備により、地上と地下の歩行者空間それぞれに機能的、空間的な特徴を与え、季節、時間、目的により歩く場所を選択できる重層的な歩行空間を構成します。また、地上、地下に空間的なつながりを持たせるとともに、相互を認識しやすい工夫を凝らすことにより、一体的な歩行者空間、賑わい創出空間としての厚みを持たせます。

#### (7) アクティビティの誘導方向

- 物販、飲食、業務、娯楽などの都心の主要なアクティビティが周辺に集中しており、そのための移動の中心軸であることから、目的地へ行く道すがらの風景や散歩、探索を楽しめる環境をつくります。
- 現状では少ない「その場に留まって何かする」というアクティビティ（「休憩する」、「気分や状況に応じて豊かに時間を使う」、「人を見る～人に見られる場に身を置く」、「様々な情報を得る」等）を増加させます。

#### (4) オープンスペースの誘導方向

- 豊かな並木と沿道建築物により明確な景観軸を形成します。
- 滞留型アクティビティが可能になるよう、小規模広場の確保、しつらえの工夫などを施します。
- 地上と地下の空間的な一体性を演出します。
- 大通、北三条通との交差点において、沿道建築物と一体的な整備を行なうことにより、結節点の特徴付けを行ないます。

#### (ウ) 空間づくりのテーマ

- ・先進性、独自性による賑わいの演出（次々と新しいアクティビティを誘発）
- ・日々更新される街（街の風景、機能・活動の変化）
- ・札幌らしさの折り込み（先進性等を持ちつつも地域性を大事に）

## イ 創成川通

### 新しい活動、文化、交流、緑を育む川辺ストリート

明治の開拓期当初から、時代の要請に応じて常に札幌の発展、そして市民生活を支えて来た創成川の歴史的価値を重んじつつ、緑、水を活かして時代に合った市民のための空間として新しい価値を与えます。

水辺を最大限に活かすとともに、これと調和する多様な緑の姿を創出し、都心には少ない自然を活かした空間とすることにより、今までの都心にはない新しいアクティビティを生む个性的な空間としていきます。また、兩岸からアプローチできる空間とすることにより、東西市街地を相互に連携させる場へと質的な転換を図ります。

#### (7) アクティビティの誘導方向

- 休憩、読書、食事、喫茶、散歩、自然観察などにより、ゆったりとした時間を過ごすことにより精神的なリフレッシュをもたらします。
- 水辺を活かしたイベント、子供の遊び、またジョギングを始めとする激しい動きを伴わないアクティビティを、相互に干渉し合わない適度な距離感をもって行なうことができるようにします。
- 観光客が札幌らしさ（札幌の歴史）に触れるために訪れます。
- 活用の企画、運営や日常的な維持管理を周辺のまちづくり組織や市民が行なうことを通して、親しみの持てる環境をつくります。

#### (4) オープンスペースの誘導方向

- 都心の中での貴重な自然的空間（豊かな緑、親水性、地形の変化、多様な植生等）を創出します。
- その中で、創成川沿いならではのアクティビティが展開可能な施設を質の高いデザインで配置します。
- 札幌の歴史性を表現し、それを訴えかける空間を形成します。
- 居心地の良いオープンスペースとするため、植栽、造成の工夫により、車道に隣接することでこもり影響を抑制します。

#### (ウ) 空間づくりのテーマ

- ・開拓期から現在に至るまでの歴史性（札幌の都市開発の基点、かつての姿）
- ・利用される空間（人が入り込み易い）

## ウ 大通

### 魅力的な緑環境を持ち、市民が憩い、活動するストリート

広い空を感じ、また山並みを望むことができ、都心の中で強く札幌を感じることのできる空間であり、都心を訪れるあらゆる人にとっての憩いの場です。格子状の道路パターンにアクセントを与えるためにブロックごとに特徴を持たせることにより、各ブロックに多様なアクティビティを誘導することが期待できます。

駅前通と並ぶ景観軸として、豊富で連続的な緑を確保するとともに、沿道との関係に着目しながら誘導するアクティビティに対応したランドスケープを形成します。

#### (7) アクティビティの誘導方向

- 大通公園全体としてのストーリーにもとづいて、1丁目から13丁目に至る長大な空間を複数のブロックに区分し、周辺市街地の特性とも関連する特徴的なアクティビティが展開されます。
- 芸術文化の鑑賞、快適な居住など、大通公園を庭に見立てた質の高いアクティビティが沿道で展開されます。

#### (4) オープンスペースの誘導方向

- ブロック毎のアクティビティに対応した面的な広がりを持つ緑の空間を、個性を持たせながら形成します。
- 各ブロックの一体性を高め、空間活用の可能性を高めるため、交通機能の確保とのバランスに配慮し、段階的に公園の連続化を進めます。
- 公園と周辺との関連性を強化するため、沿道に対する望ましい大通空間のあり方について検討を行ないます。

#### (ウ) 空間づくりのテーマ

- ・人々に親しまれる都市公園、緑の森（活動空間、緑の多様性）
- ・都心部での存在感を際立たせる緑（全体の一体感、連続性）

## エ 北三条通

### 札幌の歴史と文化を感じながら新たな活動を育むストリート

北海道庁からサッポロファクトリー、永山記念公園へと続く歴史的な意味を持つ通りです。現在はその歴史性を強く感じることはできないが、それを継承していくためにも一つの通りとして強く意識できるようにすることで、市民の関心や観光要素としての価値を高め、多様な活動の展開が期待できる通りです。

通りとしてのイメージを高めるため、道庁前のイチョウ並木や点在する歴史的な資源を活かしながら景観的な連続性を表現します。また、これと連動して創成川以東の地区で見られる小さく個性的な創造的活動など、新しい文化を育むための活動を展開することにより、(古き場所だが)新しい札幌の価値を創造する場としていきます。

#### (7) アクティビティの誘導方向

- 都心を探索する東西方向の中心軸としてまち歩きの楽しさを演出します。
- レンガ倉庫等、沿道の資源の特徴やそれを活かした小さな活動の積み重ねにより、創成川以東の地区イメージを向上させます。

#### (4) オープンスペースの誘導方向

- 並木の統一、共通のデザイン指針の導入などにより通りとしての統一感を創出します。
- 創成川を挟んだ東西市街地の心理的距離感を縮めるため、滞留型のアクティビティを挿入するための一息つけるスポットを随所に設けます。

#### (ウ) 空間づくりのテーマ

- ・旧道庁を基点とする歴史を感じるストリート (昔をしのばせるデザイン)
- ・沿道と一体となった風景、活動の舞台づくり (通りと沿道の関係)